

事務局から

▼長年、研究所の所長を務められた八木三男さんを偲ぶ会が5月24日新潟市で開かれ、遠くは京都より京都大学で八木さんと一緒に学ばれた錦坂真さんはじめ、東京・山本由美さん、県内各界から50名近く参会されました。八木さんが好んでおられたフルト奏者、桂聰子さん（長野・松本市）が、追悼の曲の演奏後、これまでの業績や彼のお人柄など、時には笑いを誘いながら、文化の薫り高い、教養あふれるお話を語っていただき、会場内は和やかに懇談し八木さんにふさわしい偲ぶ会となりました。

▼この4月から、研究所の所員として新しく大滝浩運さんを迎えることができました。八木三男さんの教え子であり、同僚でもあった方で、研究所にとって頼もしい人が加わることになり、今後の活躍が期待されます。

▼次号9月号は特集「憲法と子ども・市民」（仮題）を企画し、憲法が保障する子どもの学習権と改定学習指導要領はどのように関わるか、戦後60年間にわたって主権者を育ててきた憲法教育がいまどう展開され、生かされているのかなど、探りたいと思います。（内山）

編集後記

▼最近の農村の変貌は、のどかな風景を奪ったばかりではありません。子供の生活空間を奪い、地域社会との関係を希薄にしています。境野論文の核心である、子どもは抽象空間では育たない。地域の具体的文化によって育つとする視点を、私たちはいま改めて確認する必要があります。

▼「平成の大合併」による市町村数の減少率は全国平均が約二分の一なのに、新潟県のそれは約三分の一です。三輪論文では、その背景に国が地方への財政締め付けを強め、そのしわ寄せが学校統廃合にあると指摘されています。その理由として「適正」学校規模が「教育効果」があると宣伝しています。津南町の方の「良い模範があつてもいい」との声を聞き、経済的尺度では計れない子どもと郷土への愛を感じました。

▼北村さんの全県キャラバン報告を読みますと、県内の産業、雇用の実態が全国の深刻な状況と変わらないことを示しています。「面倒なことには手を触れないできた」「先このことは考えないようにしてきた」若者が

声を出し始めています。報道によれば新潟にも青年ユニオンが発足したそうです。若者の未来に期待します。

▼所長の八木さんの最後のエッセイ『閑適』のあとで「が発行されました。牧植名さんから心のもつた感懐を寄せいただきました。▼この4月から所員として仕事を手伝っています。教員を退職して六年目ですから戸惑うばかりです。老骨に鞭打つ毎日です。宜しくお願いします。（大滝）

にいがたの教育情報 No. 94

2008年6月30日発行

編集・発行 にいがた県民教育研究所

発行人 長崎 明

〒951-8116 新潟市東中通1-86 山崎ビル

電話・FAX (025)228-2924

振替口座 00640-0-12332

Eメール kyoiku@triton.ocn.ne.jp

印刷所・神林印刷

TEL 0254-66-7959

本紙内容の無断転載を禁じます。